

ノイエスだより

群馬県前橋市元総社町73-5
 TEL 027-255-3434
 FAX 027-255-3435
<https://www.neues-asahi.jp>

Communication House
 NEUES
 ASAHI

新型コロナウイルス感染は二〇一九年十二月初旬に中国武漢で第一例目の感染者が確認され、数カ月のうちにパンデミックと世界中に広がり二〇二〇年一月十五日には日本でも感染者が確認され、その後、現在に至っています。そして二〇二二年二月二十四日に始まったロシアによるウクライナ侵攻がさらに世界を大きく変えてしまいました。

日常をあたりまえに生活していた人々にとって自然災害や社会的変化は心身に大きな傷あとを残していきます。

海辺で拾った貝殻や散歩の途中で拾った小石。旅立った人が書き残したメモやハガキなど他人にとっては何でもないガラクタのようなものが個人にとっては宝物になります。

作家の作品は、その心、そして実人生が込められているものです。作品と向き合い、作家と話す……。そんな時間はきっと静かな豊かな風を運んでくれることでしょう。

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

上杉 一道個展 〈企画〉

― 平凡を行ずる人々 ―

会期 十一月十二日(土)～二十日(日)
 午前十時～午後五時

ひたすら歩く旅のなかで句作を続けた俳人・山頭火は「道」についての随筆のなかで、「道は非凡を求むるところになくして、平凡を行ずることにある。」さらに「道を離れて人はなく、人を離れて道はない。道は前にある、まっすぐに行こう、まっすぐに行こう。」と書いています。

「平凡を行ずる」とは一歩ずつ踏みしめるように、日常を丁寧に暮らすことだと思ふのですが、その上で、あっけらかんと「まっすぐに行こう、まっすぐに行こう。」と言われると、多少アンバランスな歩様でも、なるべく背筋を伸ばして真っ直ぐに歩いて行こうと思わ

ずにいられません。
 ……平凡を行ずるように「歩く人」の姿の中にある「永遠」とか「普遍」に繋がるもの……それは目には見えないけれど、左手で「平凡の線」をまさぐることで何とか見えるようにすることができないだろうか？

今回の展示は、そんな愚かな目論見ではありませんが、ぜひとも御高覧頂きますようお願い申し上げます。
 上杉 一道

作家在廊日

会期中は在廊予定です。都合で不在の場合もあります。

うつわ彩々

高橋芳宣展 〈企画〉

会期 十一月二十六日(土)～二十四日(日)
 午前十時～午後五時(最終日は午後三時終了)

野山の残菊が風に揺れ、そろそろ初冬にかけての風景に移り変わってきます。そして食欲もしいだいによみがえってきて食べる楽しさも増してきました。

鍋を囲み、熱燗を酌み交わす食卓に並ぶ器は、食事の時間を豊かに楽しいものにしてくれます。山の幸、里の恵と海の幸が盛り付けられる器は特別な空間と時間を演出します。

高橋芳宣氏の器には、白瓷の小鉢でも金彩や絵付けの皿や酒器にいたるまで、卓越した技術と長年の経験から生み出された「品」と「美しさ」があります。

それは特別の日でも、日常の普段使いであっても気軽に使い、食卓に「花」を添えてくれます。

作家の作品を日常で使う楽しみを味わっていただければと思います。

*本号裏面に一部作品をご紹介します。

作家在廊日

十一月二十六日・二十七日・二十八日・十二月四日(予定)

※ご来場の際は、マスク着用と手指の消毒を引き続きお願いいたします。

予告

ノイエス朝日 年末年始の展覧会のご案内

表現とカタチII 〈企画〉

会期 十二月十日(土)～十八日(日)
 午前十時～午後五時(最終日は午後四時終了)

出品作家

麻羅詩乃(江戸小紋) 佐藤遙果(ガラス)
 千葉 功(漆芸) 就履(ペン画)
 都丸和也(陶芸)

可視2023 〈企画〉

会期 二〇二三年 一月十四日(土)～二十二日(日)
 午前十時～午後五時(最終日は午後四時終了)

出品作家

今井充俊	大島康幸	小淵俊夫
加藤啓治	金井訓志	北村真行
坂本幸重	下山直紀	多胡 宏
豊嶋康男	原澤和彦	原 誠二



©Yoneyama Masahiro

高橋芳宣 うつわ彩々

『作陶』それは人間が永い歴史の間に大自然の原理を最も巧みに把握してきた創造活動です。その自然で奥深い作業から生まれる陶の美は深く人々の心を引き付けるものが有ります。その変化に富んだ作業は飽きることなく己の心を掴んで離しません。この先、模索しつつも「用の美」の作陶を私なりに歩んで行きたいものです。

〈高橋芳宣一作陶心得〉



色絵金彩籠目文長方向付



染付双鹿楓文輪花皿



染付幾何文筒湯呑



彩絵更紗文大皿



赤絵蕨文菱形向付



色絵水玉福寿文輪花小皿



染付瓔珞帯文筒湯呑



赤絵蝶文台小皿



彩絵花文面取小鉢



染付横筋文中皿



色絵柘榴形豆皿



染付花小紋面取飯碗



赤絵よろけ縞豆皿



五彩縦縞文飯碗



色絵水玉文豆形小付



色絵幾何文小鉢



金彩鯰形向付



白瓷四方台小鉢



赤絵瓜形向付



白瓷鉄鉢形平鉢

高橋芳宣 作陶略歴

- 昭和49年 新宿柿傳角筈窯にて茶懐石の作陶に従事、同時に数寄者、故・大河内風船子先生の作陶助手を務める
- 昭和51年 九谷焼・須田青華（3代目）窯に入門
- 昭和56年 石川県加賀市にて独立開窯 [月乃桂窯]
- 平成4年 群馬県甘楽町へ陶房を移し開窯 [かんら陶房]
- 個展・常設 新宿伊勢丹・日本橋高島屋・柿傳ギャラリー（新宿）・一客（大阪）ノイエス朝日（前橋） その他各地美術工芸店

ここ数日きれいなうろこ雲やひつじ雲（厳密には巻積雲・高積雲といった違いがあり発生している高度が違うそうです）が見られ、「天高く馬肥ゆる秋」と思わず唱えてしまうような気候です。木の下を歩くとドングリや銀杏がたくさん落ちてるので、天候も良く、おいしいものに恵まれ、狩猟採集の時代には本当に秋は幸せな季節だったのだろうなと想像します。

さらに現代では「芸術の秋」ということで展覧会や音楽会他たくさんさんのイベントが重なり……忙しくて困るほどかもしれません。

魅力的なイベント、食事、本、自然……あちこちで誘惑が続きます。が、体も頭も重量オーバーにならないように軽やかに楽しめる範囲でたくさんさんの秋を満喫したいと思っています。

橋本